

令和6年度 学校経営報告書

八王子市立元八王子東小学校
校長 高木 健示

1 今年度の取組と自己評価

教育活動への取組と自己評価

取組	目標	主な方策	自己評価
ア 人権尊重教育推進校としての人権教育の推進	○人権意識・自己肯定感の向上	<ul style="list-style-type: none"> ・道徳授業地区公開講座（9月）、<u>東京都教育委員会人権尊重教育推進校の研究発表会（1月）</u>を実施し、人権教育の取組について授業公開及び研究内容の報告を行う。 ・「人権の花」づくりなどの生物を育てることを通して、思いやりの心、助け合う心、生命尊重の心を育てる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・9月14日（土）に道徳授業地区公開講座を開催し、友情、信頼等をテーマにした道徳授業を、全学級で公開した。また、講師を招き、「ネットのトラブルから子供たちを守るために～家庭で大切にしたいポイント～」をテーマに講演会を行った。 校内研究では、事前に3回の研究授業を行い、研究主題「自分も相手も大切にできる心の育成」に迫った。令和7年1月24日（金）に、東京都教育委員会人権尊重教育推進校の研究発表会を開催し、2年間の研究の成果を発表した。研究発表会の講師として、車いすバスケットボール男子日本代表ヘッドコーチ 京谷和幸氏をお招きして、京谷様の体験談から、多くを学ぶことができた。 ・1年生と6年生等、ペア学年で栽培活動を行うことにより「人権の花」の世話をした。生命尊重の心を育むことと同時に、異学年の交流を行うことができた。
イ 学習指導	○基礎・基本の定着、読解力、考え、表現する力の向上を図る学習の充実	<ul style="list-style-type: none"> ・国語科を中心に、児童の語彙を増やす指導を展開する。文学教材や説明文教材において、語句の意味を確かめながら、叙述に基づいて読みを深めていったり、読書の時間を計画的に設定し日常から各児童に本を1冊持たせる活動を行ったりして、語彙を獲得させていく。 ・週3回15分ずつ朝の時間に設定するステップタイムを有効活用し、国語科における読解力向上の時間を十分に確保する。叙述など根拠をもとに、読み取る活動を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・昨年度、校内研究で始めた取組を継続している。本校児童には、まず語彙を豊かにさせる必要がある、という実態から、国語科を中心に授業の改善を図った。研究授業でも、国土館大学教授の井上善弘先生を講師に招き、「話す・聞く」力を高めるための指導のあり方について学んだ。 ・ステップタイムを活用して、新出漢字の学習等、国語の基礎学力の定着を図った。ステップタイムを朝の時間に移行して4年目になるが、国語の授業で、精読に充てる時間が多く取れる学級が増えている。

<p>ウ 生活指導・キャリア教育</p>	<p>○主体的、対話的で深い学びが実現する授業づくり</p> <p>○学ぶ意欲の喚起と個に応じた指導の充実</p> <p>○地域の自然や施設、人材を生かした学習の充実</p> <p>○学習規律・生活規律の徹底と規範意識の向上</p> <p>○いじめの未然防止、早期対応の充実</p>	<p>・単元・題材を通して身に付けさせたい力を明確にし、教えるべき事項と話し合い深める事項を、ねらいに応じて位置付ける。また、児童が学ぶ意義を感じ意欲を高めていけるよう、単元・題材の初めに見通しを立てる場面を設定し、終了時にはICTを活用する等して、振り返る場面を設定する。</p> <p>・児童の習熟の状況に応じ、スモールステップで学習を進めたり、発展的な内容を行ったりする。</p> <p>・算数において3年生以上は習熟度別で学習し、児童の習熟に応じたきめ細かな指導を行う。また、入門期の1年生はチームティーチングで学習を行う。</p> <p>・「日本遺産 高尾山」等、第3学年から第6学年まで「郷土学習」を年間指導計画に位置付け、実施する。第3学年で八王子の養蚕、第4学年で八王子の伝統文化や祭り、第5学年で八王子の自然、第6学年で八王子の歴史を課題として、地域学習を行う。特に、第5学年で高尾山での森林教室、第6学年で八王子花柳界の方との交流を実施する等して、地域の人材、自然、文化に触れる体験的活動を取り入れ、自身の在り方について考え、地域を愛する心を育成する。</p> <p>・基本的な生活習慣や本校の学校のきまり「わたしたちの暮らし」の指導を徹底し、自主性社会性を育てる。学校のきまりについては、実態に応じて、適宜、見直しを図る。また、児童理解に努め、事故や非行を未然に防止し、厳しさの中にも温かさをもった指導・助言を行い、健全な児童の育成を図る。</p> <p>・ふれあい月間（6月、11月、2月）において3回いじめに関するアンケートを実施し、実態把握を行い必要な指導を行うとともに、保護者と連携し、解消を図る。</p> <p>・毎週金曜日に実施する学校いじめ対策委員会でいじめに関する各学年児童の情報交換を行い、いじめの未然防止と早期対応を行ったり、いじめ未然防止のスキル向上のための教員研修を実施したりする。</p>	<p>・新型コロナ感染症への配慮が解除され、年度初めから、児童同士の対話を取り入れた学習が行えるようになった。各教科で、児童同士の話し合いを取り入れている。授業では、導入時に学びの見通しをもたせることとともに、板書した学習内容を、模造紙等に残して、フィードバックできる工夫をする教員が増え、全校に広まってきている。</p> <p>・1・2年生については、チームティーチングで学習を進めることができた。3年生以上の算数では、2学期以降、代替教員が確保できなかったが、時間講師で対応でき、習熟度別授業を行うことができた。人員の確保については、引き続き行政対応が望まれる。</p> <p>・地域に出かけたり、地域の方とふれあったりする活動を、年度初めから再開できた。4月末に、3・4年生で高尾山に遠足に出かけた。また、6月に5年生が、高尾山森林教室に参加し、そこでの体験を作文に表すコンクールにも応募した。入選した児童も見られた。笑顔プロジェクトでは、6年生が八王子芸妓衆に学ぶ機会があり、八王子の文化に触れることができた。</p> <p>・基本方針の要点を「わたしたちの暮らし」として、年度始めに全家庭に配布した。生活指導夕会の時間等を活用して、生活指導主任や週番が、改善すべき児童の生活態度等について共通理解を呼び掛け、教師間の理解を深めた。児童に対して共通した指導を行うようにしている。</p> <p>・金曜日の放課後に設定した「いじめ問題に対応する時間」に、児童の状況を報告し合うことにより、学級担任だけでなく、指導に関わる教員で共通理解することで、問題の早期対応や未然防止を行うことに生かしている。年3回のいじめアンケートも計画通り実施した。今後も、いじめの未然防止や早期対応に努めていく。</p>
----------------------	---	--	---

	<p>○キャリア教育の推進</p> <p>○不登校の未然防止及び対応</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の人材や専門性のある方による職業やその職業を通したやりがいを知る活動を設定する。 ・不登校児童を無くすため、登校支援コーディネーター（生活指導主任）が中心となり、生活指導部会や生活指導夕会での情報交換、スクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカー等関係者や関係機関との連携等を推進していく。 ・不登校支援センター（教育相談）や関係機関（八王子子ども家庭支援センター・八王子児童相談所等）との連携を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・キャリアパスポートの活用を全学年で行ったり、自己の将来についての学習を行ったりしている。地域人材の招へいや児童が地域に出る活動についてホームページ等で周知を図る等、学校の取組を分かりやすく伝えてきたことで、学校評価の結果から、保護者のキャリア教育についての認識が高まってきたことが感じられる。 ・不登校に関する対応は、校内の委員会で状況について共通理解を図り、SC、SSW、関係諸機関と連携し、個々の児童に応じた対応を行っている。高尾山学園等、対象児童にとって、必要な環境を提示できる事例もあり、今後も各関係機関との連携を深めていく。
エ 体力向上・健康づくり	○学びに主体的に向かうために必要な体力の向上	<ul style="list-style-type: none"> ・東京都児童・生徒体力・運動能力、生活・運動習慣等調査の調査結果を受け、特に、敏捷性、瞬発力、持久力の向上を主とした総合的な動きを高める運動を重視し、体育科の授業にライフキネティックを取り入れていく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・体力テストの結果からは、「立ち幅跳び」「長座体前屈」「20mシャトルラン」等が、都平均を下回った学年が多かった。下学年では平均を上回っているが、学年が上がると下回ってしまう種目も見られる。低学年から継続して、運動を習慣付ける必要がある。体育部から、各学年ごとの考察に基づいた改善策が提示され、授業で取り組んでいる。休み時間は、中休み、昼休みのどちらかは必ず外に出て活動することを指導したり、学級遊びを奨励したり等、授業以外でも、具体的な取組を行っている。
オ 特別支援教育の推進	<p>○特別支援教室の充実</p> <p>○特別支援校内委員会の充実</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・他校での通級指導や特別支援教室（えがお教室）における学びの状況を担任と特別支援教室等担当で共有し、日常の学びや生活への適応の向上を図る。 ・特別支援教室に通級する児童及び学級での学びの状況において配慮が必要な児童の情報を共有し、よりよい指導方法について検討し、指導に生かす。 ・個別指導計画及び学校生活支援シートを作成・活用し、障害のある児童一人一人のニーズに応じたきめ細やかな指導や支援を組織的・計画的に行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・特別支援教室を利用する児童が増え、昨年度途中から、午後も開設している。特別支援教室専門員がパイプ役となり、担任と特別支援教室担当とで共有し、日々の指導に生かしている。特別支援校内委員会は毎月開催することができた。話し合われた内容について、特別支援コーディネーターから、委員会に参加していない教員へ周知し、共通理解を図ることを確認した。
カ 保護者・地域とともにある開かれた学校づくり	○学校運営協議会と連携した教育活動や教育環境の充実	<ul style="list-style-type: none"> ・月1回学校運営協議会を実施し、学校の状況を伝え、委員から意見をいただき、学校教育に生かしていく。 ・漢字検定（年2回）、東小スタディ（木曜日放課後）の運営を行い、児童の学ぶ意欲及び基礎学力向上を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・年間計画通りに、学校運営協議会を毎月実施し、委員の皆様の意見をうかがうことができた。委員の皆様のご尽力により、東小スタディ（放課後の学習教室）を毎週木曜日の放課後に、実施できている。また、今年は、子供茶道教室を開

	○地域人材や保護者ボランティアとの連携	<ul style="list-style-type: none"> 生活科や総合的な学習の時間をはじめとして、地域人材や保護者ボランティアに積極的に学校教育に関わってもらい、教育内容の一層の充実を図る。また、地域人材の掘り起こしを行い、人材確保を図る。 	<p>催していただき、参加児童に好評であった。漢字検定は、10月と2月の2回、開催した。小学生で英語検定を受験したいと希望する児童には、小中連携教育を行っている四谷中学校に相談し、小学生にも英語検定を受験する機会をいただいた。</p> <ul style="list-style-type: none"> 交通ボランティアや園芸ボランティア、図書ボランティアの皆様等には、年間を通して関わっていただき、安全を見守っていただいたり、学習環境を整えていただいたりした。新規のボランティアが見つからず、自治会等にも協力を依頼している。また、おやじの会、PTAのご尽力をいただき、7月にキャンプファイヤー、2月に「逃走中」のイベントを開催し、子供たちが喜ぶ姿が見られている。
--	---------------------	--	--

2 来年度以降の課題と対応策

ア 人権尊重教育推進校としての取組

- 令和5年度、6年度の2年間、「自分も相手も大切にできる心の育成」を研究主題として、東京都人権尊重教育推進校としての研究を進めた。2年間の成果と課題をまとめ、児童の実態を明らかにして、令和7年度、8年度の研究に繋げていく。
- 思いやりの心の醸成、児童の自主的な活動の促進を図るため、特別活動で取り組む縦割り班活動の充実を更に図る。
- 地域と関わる機会が増えてきている。児童や教職員が多様な人と関わる機会を設定し、様々な立場の人について理解を深められるようにして、家庭に対してのキャリア教育の啓発をさらに強化していく。
- 「自分のことに関するアンケート」を活用し、児童理解に努め、児童の自尊感情・自己肯定感の醸成を行う。
- 言語環境を整え、他者に対して、人権を尊重した適切な言葉遣いができるようにする。

イ 確かな学力の定着に関する取組

- 校内研究及び管理職による日常での授業観察を通して、児童が学び合う活動を計画的に設定し、主体的・対話的で深い学びに向けた授業改善を更に進める。
- 中学校との連携を図り、授業のねらいと児童に身に付けさせる力を明確にし、教員が意識することで、学習意欲を高める授業づくりを行う。
- 国語科の授業を中心に、語彙を豊かにし読解力を高めるとともに、根拠を明確にして自分の考えを述べられるようにし、他教科でも活用させるよう実践を重ねる。
- 学習用端末の使用については、定着期を迎えた。集団の中で考えを共有する学び合いへ向けて、更に活用していき、児童の思考力や表現力の向上を図る。
- 「週ごとの指導計画」を活用し、学習内容を計画的に進めるとともに、学年で内容の確認を行い指導の充実を図る。
- 「元八王子東小 生活指導基本方針」に基づき、指導を徹底し学習規律の確立を図り、落ち着いて学習できる環境を整える。

ウ 生活の場としての取組

- 心地よい学習の場づくりを目指し、清掃活動を励行し、教室等の整理整頓を更に進める。
- 「元八王子東小 生活指導基本方針」に基づき、中学校との連携も図りながら、家庭の協力も得て、望ましい生活習慣の確立を進めていく。
- 学校運営協議会、PTA、おやじの会や青少対等の地域機関とも連携し、教育活動の充実及び安全対策を更に進める。

エ 学校運営

- 学校運営協議会との連携を更に密にし、地域の施設や自治会等との連携を進め、地域に根ざした教育の充実と地域を愛する子供の育成を図ることを継続する。
- 指導力向上のため、授業づくりに関わるOJTを定期的に行い、外部研修等を有効に活用する取組を強化する。
- 校務分掌組織の見直しを図り業務の効率化を進め、職員のライフ・ワークバランスを促進する。